
公開研究会

人の自立をささえる北欧の多様な居住環境デザイン

～社会システムと場所の質からよみとく北欧の「ふつう」の生活 その3～

1993年のEU発足に伴うヨーロッパ社会の変容とともに、「北欧」も「=福祉の国」といったイメージでは語りきれない状況にあります。しかしながら、豊かで安心して暮らし続けることのできる「ふつう」の生活は保たれているようです。誰もが安心して住み続けられる居住環境の確立は、社会の格差化が進行する中、日本のみならず、世界的に解決が求められている課題です。

この研究会では、北欧において、vulnerableな社会的立場や状況に直面している人々に対し、どのような居住の場や仕組みが提供され、こうした人々の「ふつう」の生活を支えているのか。それらはどのようにデザインされ、どのように運営されているのか。北欧の居住環境デザインがこうした課題に対しどのような試みを展開しているのか、居住のsustainability実現にむけた北欧諸国の試みを、継続的な研究活動の成果から読み解いていきます。

主催：建築計画委員会 計画基礎運営委員会 環境行動研究小委員会

日時：2018年11月23日（金）13：30～17：00

会場：建築会館会議室（東京都港区芝5-26-20）

<プログラム（予定）>

主旨説明：西田 徹（武庫川女子大学）

主題解説

1. 精神に障害のある人々の自立を包摂的に支える仕組み 巖爽（宮城学院女子大学）
2. コレクティブハウスにおける協働と看取り 水村容子（東洋大学）
3. ひとり親やDV被害者のための居住支援 葛西リサ（立教大学）
4. 我々は「ふつう」暮らしをどうとらえ、どう参照すれば良いのか 橘弘志（実践女子大学）

ディスカッション

司会：西田 徹（武庫川女子大学）

参加費：会員 1,500円、会員外 2,500円、学生 500円（資料代含む／当日会場払い）

定員：50名（申込み先着順）

申込方法：催し物名称、氏名・勤務先・所属・同住所・同電話番号を明記し、下記までお申し込みください。

申込・問合せ：垣野義典（東京理科大学）

E-mail：y-kakino@ace.tut.ac.jp